

平成 30 年度版

三重大学ウェブシラバス作成の手引き

●シラバスの定義

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。

(中央教育審議会「学士課程教育構築に向けて」 2008.12)

シラバスは、授業の全体像を受講学生に伝える文章である。シラバスに記載された授業の詳細は、授業前にあらかじめ提供されることで、学生の主体的な学修を促し、学修の意欲や前向きな取り組みを喚起することになる。

●シラバスの役割

(1) 授業選択のガイドとしての機能

選択の機会がある場合には、授業科目選択の基準として機能する。学生は、自分の興味・関心や学力に見合った授業かどうかを判断する材料として用いる。

(2) 担当教員と受講する学生との契約書としての機能

記載されている内容は、担当教員と受講する学生との契約事項になる。担当教員は、記載された通りに授業を実施することを学生に対して約束し、受講する学生は、記載された事項を遵守することで、相互に良好な学修環境をつくる。

(3) 学修効果を高める文書としての機能

授業全体の中で、今回の授業の位置づけを確認したり、授業の目的や達成目標を繰り返して確認することは、学修効果を高めることにつながる。テストやレポートの内容を記載することで、受講する学生が計画的に学修する習慣や授業時間外学修をする習慣を身につけることができる。

(4) 授業の雰囲気伝える文書としての機能

内容を丁寧かつ詳細に記述することで、授業がしっかりと計画されたものであることを印象づけることができる。

(5) 授業全体をデザインする文書としての機能

内容を丁寧に記述し、各回の授業で扱う内容や参考資料を考えることで、担当教員自身が、授業の全容を再確認することにもつながる。一度しっかりとした授業計画（シラバス）をつくと、同じ授業科目を再度担当する際には、見直しと改善をすればよくなり、授業の準備を効率的にする。

(6) 学科・課程・専修等のカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能

学科やコース全体のカリキュラムを統合し、一貫性のあるものにすることを支援する。すなわち、詳細に記述されていれば、他の教員もその授業科目の内容を詳細に知ることができるようになる。また、他の授業科目の授業計画（シラバス）を見ると、自分が教える学生が、これまでにどのようなことを学修しているのかを把握することが可能になる。

(7) 教育の質保証と教員の教育業績のエビデンス

担当教員は、シラバスの作成作業を通して、授業の全体像をより具体的にすることができ、授業を設計する能力を向上させることは、授業での話し方、板書のしかた等、授業のやり方を改善・上達させることにつながる効果を持つ。

●授業設計のポイント

(1) 適切な学修目標を設定するためには、4つの視点を関連づけながら検討し設定することが大切である。

①カリキュラムからの視点

- ・大学や学部・学科がどのような人材を育成しようとしているか。全学や学部・学科で策定されているディプロマ・ポリシー（学位授与の方針：DP）を参照しながら設定することが重要である。
- ・担当する授業科目がカリキュラムの中でどのような位置づけを与えられ、何を期待されているか。
- ・学生が履修する他の授業科目とどのような関係にあるか。

②学問分野からの視点

- ・自分が教えようとする学問分野や研究テーマでは、本質的に何が重要なのか。
- ・学問分野の研究成果を教えることを重視するのか、それとも、学問分野に特有の考え方や研究方法を教えることを重視するのか。

③受講生からの視点

- ・学生がその授業科目を受講するにあたり、どの程度の予備知識と能力を持っているか。

- ・学生は、どのようなことに関心を抱いているか。
- ・学生には、どの程度の学修習慣が身についているか。
- ・学生は、卒業後どのような進路を選択しようとしているか。

④物理的制約条件からの視点

- ・どのような教室（活用できる情報機器も含め）で授業をするか
- ・ティーチング・アシスタント（TA）などによるサポートが得られるか。

内容の構成や時間配分は、学生の学修成果を左右する重要な要素である。最後の授業が終わった後に、学生にどのような知識、態度、技能が身についているかを明確にし、学修の成果から逆算的に授業を設計することも大切である。また、学生の学修時間も学修成果に大きくかかわる要因であり、授業の設計に当たっては、教室外の学修時間（授業外学修の時間）も念頭に入れておく必要がある。

（２）授業の目的と到達目標（学修目標）の明確化

①現実的なものにする。

- ・学生が、授業を履修すると「こんなことができる」、「こんなことを知ることができる」というイメージを描けるように記述する。

②学科・コース等のカリキュラムの中での位置づけを明示する。

- ・授業が、カリキュラム全体の目標（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有していることを明示することで、受講する学生に対して、学修の意義をわかりやすく理解させることができる。

（３）授業の目的の書き方

- ・授業科目の存在意義を記述する。
- ・学生を主語にして記述する（例：学生が、〇〇について知り、理解できるようになることを目的とする）。
- ・この授業科目を学修することがなぜ必要か（学修した内容がどのように役立つのか）を記述する（例：～するために）。
- ・複雑な概念を持つ動詞、概括的な概念を持つ動詞を使用する（例：知る、理解する、考察する、実施する、身につける、示す、判断する、感ずる、使用する等）

（４）到達目標の書き方

- ・授業を終了した段階で、できるようになってほしい行動を「〇〇できる」という表現で示す。
- ・学生を主語にして記述する（学生の行動として目標を記述する）。
- ・授業の目的と対応させ、数個の目標を設定する。
- ・概念的な表現ではなく、知識・態度・技能の３つの領域に分けて記述する。

知識：述べる、説明する、分類する、使用する、適用する、応用する等

態度：行う、表現する、参加する、コミュニケーションする、始める、見せる等

技能：実施する、調べる、準備する、工夫する、動かす、感じる等

- ・一つの文章には、一つの目標を記述する。
- ・行動目標が評価される条件・基準を記述する。

(5) 授業内容・スケジュールの書き方

- ・授業の目的、到達目標に対応させてデザインする。
- ・わかりやすい流れを考えて、要素を選択し配列する(例:容易なものから難しいものへ、基礎から応用へ)。
- ・授業時間外の予習・復習がある場合には、ここに記述する。
- ・授業方法によって、毎回のスケジュールを具体化できない場合には、2～4回ごとのユニットに分けたりして記述する(例:第5回から第7回は、課題に対する各グループのプレゼンテーション)。
- ・授業計画(シラバス)に沿って授業を進行するのが原則であるが、受講している学生の理解度や状態によって、スケジュール等をやむを得ず変更する場合には、学生に変更理由をきちんと説明するとともに、変更の際には、改めて授業計画(シラバス)をつくり直して、学生に再度配布することが望ましい。

(6) 受講者にかかわる情報の書き方

- ・履修しなければならない(できる)年次・学期を明示する。
- ・受講に当たって前提となる知識、経験、技能等を明示する。

(7) 受講のルールにかかわる情報の書き方

- ・受講上の注意点、特に、欠席・遅刻・途中退席の扱い等について明示する。
- ・資料の配布方法や課題提出のルールを具体的に明示する。
- ・携帯電話の扱い、飲食の扱い、授業程度、私語への対応等を明示する。

(8) 教材にかかわる情報の書き方

- ・教科書を使用するかどうか記述する。使用する場合は、教科書名、著者名、出版社名、出版年、価格、入手方法等を明示する(教科書を購入したが、使用しなかったというクレームが寄せられることが多いので、教科書を使用する場合は、使用方法を明確にする)。
- ・参考文献リストは、興味を持った学生が自分で学修できるように、丁寧につくる(図書館に購入してもらうよう働きかける)。

(9) 評価にかかわる情報の書き方

- ・レポート課題のテーマ、提出期限、試験の時期を明示する。
- ・複数の評価方法を用いる場合には、それらの基準、配分割合（例：テスト50%、レポート25%、毎回のコメントシート提出25%等）を明示する。
- ・成績評価とは、すなわち、到達目標を達成したかを評価することであり、教える内容と関係のないことを評価することのないように留意する。
- ・学生から評価の理由を尋ねられることがあるので、その際には、きちんとした返答ができるように、基準を明確に設定し、評価の記録を保存しておく必要がある。

●作成及び活用上の留意点

大学設置基準第25条2には「成績評価基準等の明示等」として、「大学は、学生に対してあらかじめ授業の方法や内容など一年間の授業の計画を明示するものとする」、「大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性と厳格性を確保するため、学生に対して、その基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする」と定められており、シラバスを作成し公表することは大学の義務となっている。

(1) 授業の目的、到達目標、成績評価に一貫性と整合性を保つ

「授業の目標」、「授業計画」、「成績評価」は、教育の3要素といわれている。したがって、シラバスには、「目標」が明確にされなければならないし、設定された目標を達成するための「授業計画」と目標がどの程度達成されたかを明らかにする「成績評価」について具体的に示されていなければならない。さらに、この3つの要素は、密接に関連し合っており、相互の内容に齟齬がないようにしなければならない。

(2) 受講者の視点で記述する

大学の学士課程教育には、学位プログラム教育としての質保証が求められている。そこでは、「専門家である教員のもとで、学生が知識を身につける」教育のあり方から、「学生が何を学んだか」が問われ、「身につけた知識を活用し、特定の活動や行動ができるようになる」教育のあり方への転換が強調されている。したがって、①学生が分かるように、平易かつ具体的に記述する、②学生を主語として、述語を行動形式（～できる）で示すといった、学生主体の表現で記述することが重要になる。

(3) 学生の実態に即して柔軟に対応する

シラバスは、学生が学修を進めるためのガイドであり、慎重に検討し作成される必要がある。

る。また、第1回目の授業では、授業の全体像を学生がしっかり理解できるように丁寧に説明することが重要になる。しかし、授業を展開する中で、学生の反応や取り組み方から見て、授業がうまく機能していない状況がみられる場合には、授業計画を変更したり、シラバスに手直しを加えるという柔軟さも必要になる。

●シラバス作成のチェックリスト

項目	チェック	内容
授業の目的と概要		目的の主語が学生になっている
		カリキュラムに位置づけられている
学修目標		目標の主語が学生になっている
		評価可能な目標になっている
		1文に1つの目標を記述している
		評価の条件を具体的に明示している
		目標水準が適切である
授業計画		理解のための順序が適切である
		適切な量が設定されている
授業外における学修		授業内の活動と関連付けられている
		学修目標と関連付けられている
成績評価		学修目標と評価項目が対応している
		評価方法を明示している
		評価時期を明示している
		規準の配分を明示している
全体		目的・学修目標・授業計画と授業外学修がすべて一貫している
		学生の学修を中心に記述している

< I > 科目の基本情報

① 開講年度

- ・初期値として表示されます。

② 開講期分

- ・この授業科目が、教養教育、各学部・学科、各研究科における授業科目の開講分野、領域、区分のどこに位置づく授業科目かについて選択してください。

③ ナンバリングコード

- ・各科目に設定されたナンバリングコードを記述してください。
- ・授業を開講する学部、学科ないしは研究科等によって、シラバスに記載する内容に違いがあるので注意してください。
- ・ナンバリングコード一覧は、シラバス作成用の最初の画面に PDF ファイルへのリンクが用意してあります。必要に応じて参照してください。

④ 科目名

(教育学部のみ)

- ・上段に「授業科目名」、中段に授業科目の「ひらがな表記」、下段に「英語表記」を記述してください。

⑤ 授業科目名等

- ・「受講対象学生」、「選択・必修」、「授業科目名」、「単位数」について明示してください。
- ・「A 学科 B コースは必修」の一方で、「A 学科 C コースは選択」のような授業科目のために、複数の組み合わせが入力できます。複数の組み合わせを行う場合には、「授業科目名等を追加する」欄を押してください。

⑤-1 受講対象学生

- ・履修の対象となる学生の学部・学科や専攻やコース、学年を選択してください。
- ・過年度生への対応や履修対象学生に指定がある等の場合には、自由記述欄に具体的に明

示してください。

⑤—2 必修・選択

(教養教育は表示しない)

- ・ラジオボタンから「必修・選択・選択必修・その他」を選択してください。
- ・履修あるいは卒業の要件にかかわる情報等、必要に応じて記述してください。
- ・教育学部のシラバスでは、「卒業要件の種別」欄となっています。

⑤—3 授業科目名

- ・上段に「授業科目名」、中段に授業科目の「ひらがな表記」、下段に「英語表記」を記述してください。

⑤—4 授業テーマ

(教養基盤科目 (キャリア教育)、教養統合科目のみ)

- ・教養教育で開講される教養基盤科目 (キャリア教育科目)、教養統合科目については、「授業テーマ」を明示してください。

⑤—5 単位数

- ・授業科目の取得単位数を「半角数字」で記述してください。

⑥ 分野

(教養教育開講科目のみ)

- ・2014年度 (平成26年度) 以前入学者対応のため、「人文・社会・自然」のいずれの分野の授業か選択してください。複数の分野にまたがる場合は、複数選択してください。

⑦ 開放科目

- ・各学部の専門教育科目を教養教育科目として開放する場合、あるいは、受講対象に示した学生以外の受講を認める場合には、「開放科目」をチェックしてください。
- ・専門教育科目を教養教育科目として開放する場合は、別途開放認定申請書が必要です。
- ・受講を認める対象学生を選択してください。
- ・「開放科目」であっても、受け入れ可能な学部や研究科、受け入れの要件等に一定の制限を設ける場合には、その内容を記述してください。

⑧ 開講学期

- ・ラジオボタンから「前期・前期前半・前期後半・前期集中・後期・後期前半・後期後半・後期集中・通年・スケジュール表による・その他」を選択してください。
- ・開講学期について、特別に連絡する必要がある場合には、「自由記述欄」に詳細を記述してください。

⑨ 開講時間

- ・チェックボックスから開講する「曜日・時限」を選択してください。
- ・開講時間を特別に連絡する場合のみ、「自由記述欄」に詳細を記述してください。

⑩ 開講場所

- ・開講場所について、特別に連絡する必要がある場合のみ記述してください。

⑪ 担当教員

- ・(上段) 日本語表記 (氏名、所属)
- ・(下段) 英語表記
- ・複数で担当する場合は、すべての担当者について記述 (一人ずつ改行して) し、代表者の氏名の左に○を付けてください。

⑫ 連絡先

- ・電子メールアドレス、電話番号 (内線、外線) などについて記述してください。
- ・公開の範囲について、「学外にも公開・学内に限定」から選択してください。

⑬ そのほか

- ・履修に関して、予め伝えておく必要があることならについて記述してください。

⑭ 通信欄

- ・修正部分の指示、不明箇所の質問等、執筆者・担当者とのやり取りに使用してください。

個々に書き込まれた内容は、実際のシラバスには一切反映されません。

(例) 授業形態を修正しました (2017. 02. 10 津花子)

受講要件が未記入ですが問題ありませんか (2017. 11. 05 三重太郎)

< II > 学修の目的と方法

① 授業の概要

- ・この授業で取り扱う内容、背景、必要性について具体的にわかりやすく記述してください。
- ・授業で育てたい資質や能力について明示してください。
- ・学部や研究科のカリキュラムの中での授業科目の位置づけを明示してください。
- ・地域圏大学である特徴を出すために、「三重を知る」、「地域を学ぶ」等、授業に三重県や地域にかかわる内容を一部分でも含む場合には、その内容についても記述してください。

② 学修の目的

- ・授業が終了した時点で、学生が「このような知識を得る」、「このようなことができるようになる」ことを明確にイメージできるような学修の目的（一般目標）を明示してください。
- ・学生を主語にして記述してください。（「学生が、〇〇について知り、理解できるようになることを目的とする」等）
 - (×) 「〇〇について説明することを目的とする」（教員が主語）
 - (○) 「〇〇について知り、理解できるようになることを目的とする」（学生が主語）
 - (○) 「〇〇について学び、××について考察することにより、△△ができるようになる」
- ・この科目を学修することがなぜ必要か、学修した内容がどのように役立つのか（～するために）について記述してください。
- ・知識、技能の学修の必要性を、それらの活用方法、学修者に期待される社会的ニーズとの整合性を含め記述してください。
- ・複雑な概念を持つ動詞、概括的な概念を持つ動詞で記述してください。

【学修の目的に使用する動詞の例】

知る、認識する、理解する、感じる、判断する、価値を認める、評価する、位置づける、考察する、使用する、実施する、適用する、示す、創造する、身につける・・・

③ 学修の到達目標

- ・授業が終了した時点で、学生が「このような知識を得る」、「このようなことができるようになる」など、学生ができるようになってほしい行動を「〇〇できる」という表現で記述してください。
- ・学生を主語にして、学生の行動目標として記述してください。
- ・学修の目的と対応させ、一つの学修の目的に対して、知識（認知）、態度・習慣（情意）、技能（精神運動）の3つの領域に分けながら、わかりやすく記述してください。
- ・「理解する」というような概念的な言葉ではなく、観察できる行動で具体的に表現してください。
- ・一つの文章に一つの達成目標となるように記述してください（一つの文章に複数の達成目標を含めると、後でそれぞれの達成度を測定することが難しくなる。）。

●学修の目的（purpose）と学修の到達目標（goals）の関係

- ・学修の目的は、学修の（必要最低限度の）到達目標を超えた目標を意味し、他の科目との関連や学修後の総合的な成果を踏まえて示したもの。
- ・学修の到達目標は、学修者が達成する（合格する）基準を示したもの。

●到達目標に使用する動詞の例

（知識）：列記する、列挙する、述べる、具体的に述べる、説明する、分類する、比較する、例を挙げる、類別する、関係づける、解釈する、予測する、選択する、同定する、弁別する、推論する、公式化する、一般化する、利用する、応用する、適用する、演繹する、結論する、批判する、強化する

（態度）：行う、尋ねる、助ける、コミュニケーションする、寄与する、協調する、示す、見せる、表現する、始める、相互に作用する、系統立てる、参加する、反応する、答える、配慮する

（技能）：感ずる、始める、模倣する、熟練する、工夫する、実施する、行う、創造する、操作する、動かす、手術する、触れる、触診する、調べる、準備する、測定する

④ ディプロマポリシー

- ・学修の目的、学修の到達目標との関連を踏まえて選択してください。
- ・学部・学科、研究科の DP や CP における授業の位置づけを踏まえて選択してください。

⑤ 成績評価方法と基準

- ・授業の成果としての学生の学修の成果を評価する方法を記述してください
- ・学修目標が達成されたかどうかをどのように判断するか、評価内容と評価方法の関係、評価の観点や評価の基準、各評価の割合さらには評価の時期等について具体的に記述してください。
- ・成績評価の基準や内容は、誤解やトラブルを未然に防止する意味からも、授業の冒頭で説明するようにしてください。

⑥ 授業の方法

- ・講義、演習、実験、実習、実技から該当する方法を選択してください。

⑦ 授業の特徴

- ・三重大学では、次に示す授業方法の実施状況についてデータを収集し、外部評価等に活用しています。導入している方法があれば選択してください。
- ・PBL、能動的な要素を加えた授業（PBL 除く）、グループ学習の要素を加えた授業、Moodle を使用した授業、キャリア教育の要素を加えた授業からチェックしてください。
- ・複数選択式です。

⑧ 授業改善の工夫

- ・学士課程及び大学院課程教育の質の保証に向けた取り組みが強く求められております。授業アンケートの結果（FD、JABEE 等も含め）をどのように受け止め、授業の成果を高めるためにどのような工夫をされているかを記述してください。

⑨ 教科書

- ・教科書について記述してください。

⑩ 参考書

- ・参考書について記述してください。

⑪ オフィスアワー

- ・受講生が担当教員と連絡を取れる曜日、時間帯、場所について記述してください。
- ・予約の有無、メール使用の有無等についても記入してください。
- ・非常勤講師の場合は、連絡の窓口となる世話役の教員の氏名も併せて記述してください。

⑫ 受講要件

- ・この授業科目の受講に際して必要となる要件について記述してください。

⑭ 予め履修が望ましい科目

- ・予め履修しておくことが望ましい授業科目があれば記述してください。

⑮ 発展科目

- ・この授業科目で得られた学修成果をさらに発展させるために履修することが望ましい授業科目があれば記述してください。

⑯ そのほか

- ・履修に当たっての留意事項、欠席等の手続きや措置、履修上の禁止事項等学生に伝えておいた方がよい情報があれば記述してください。

<Ⅲ>授業計画

- ・「授業計画」の記入様式は、各回ごとに入力する「各回方式」と、枠内で自由に記述する「一括方式」を切り替えることができます。現在は「一括方式」になっています。
- ・記述様式を変更すると、現在書きかけの内容は保存されませんので、ご注意ください。

① キーワード

- ・授業内容に関するキーワードや専門用語を記述してください。
- ・三重県や地域にかかわるキーワードを含む場合には記述してください。

② Key Word(s)

- ・上記のキーワードを英語で表記してください。

③ 学修内容

- ・各回の授業テーマ、学修内容、活動の内容や形態等、学生がいつ何をすることがわかるように具体的に記述してください。
- ・学修の内容の設定や決定に当たっては、内容を詰め込み過ぎず、無理なく進められるような学修の量となっていること、学生が目標を達成しやすいような学修の順序となっていることが重要になります。

④ 授業外における学修

- ・15回の授業に関わる課題や授業外学修の内容(予習・復習)について記述してください。
- ・授業の内容や展開に応じた内容と量、事前の予習か事後の復習かなど具体的に記述してください。

(参照)

- 「大学教員のための授業方法とデザイン」(佐藤浩章編 玉川大学出版2010年)
- 「大学教員準備講座」(夏目達也・近田政博ほか 玉川大学出版2010年)